

ノスタルジーに触れる冬の日 ― 下里分校 餅つきイベント報告

1月25日(日)、分校ファンの皆さんと餅つきを行いました。

私が通学していた頃も、校庭での餅つきは冬の恒例行事でした。当時をPTAや生徒として覚えている方も多いのではないのでしょうか。そんな思い出の行事を「今も追体験したい」と願うファンの方がいて、時を越えても下里分校の景色は人の心に響くものなのだと感じます。

当日は大ベテランの管理人さん達の助けを借り、分校を「守る人」と「支えたい人」が共に餅をつき、語らう。これこそが、分校を残して「また見たかった景色」なのだと再確認できました。

ご協力いただいた管理人さん、参加者の皆さま、霜里農場さん、MOZARTさん、本当にありがとうございました！



「第8回 下里さくら祭り」開催のお知らせ

「冬来たりなば春遠からじ」……

今年も4月5日(日)に「第8回 下里さくら祭り」を開催いたします。

昨年から「地域の方々に足を運んでいただけるお祭」をもっともっと意識して準備を進めております。私が子どもの頃「観音さまのお祭」はとっても楽しみなものでした。友達と小銭片手にちょっとした冒険気分。

この下里分校で行われる「さくら祭り」もそのようなお祭になればいいなと思って続けております。

年々桜の木が年を取ってきておりますが、昨年は新しい桜の木の植樹もしていただきました。

着々と準備をすすめおりますので是非遊びに来てください。

発行：NPO 法人霜里学校

編集者 小熊 健一



分校のある風景

霜里学校便り 3月号

下里地区のみなさま、日頃より NPO 法人霜里学校の活動にご理解ご協力を賜りありがとうございます。“分校のある風景”霜里学校便りは NPO の日々の活動をレポートいたします。インターネットでも活動の様子を随時掲載中です。「霜里学校」で検索してください。

足元を見つめ直し、地域と共に歩むために

2月1日の日曜日、分校の教室に下里の各区長さんにお集まりいただき、お話を伺う貴重な機会を設けました。

私たちはこれまで、霜里学校がより地域に根ざした団体でありたいと願い、活動を続けてきました。その歩みを確かなものにするためにも、今一度自分たちの足元を見つめ直したい。そんな思いから、まずは地域の代表である区長さんと実際に顔を合わせ、直接お話を聞くことから始めることにしました。

当日は硬い形式ではなく、こちらの問いかけに自由に語っていただく形をとりました。区長さんたちが語る昔の下里の風景や、今それぞれの地区で感じていることなど、対話の中からこぼれ落ちる言葉の中に、私たちが大切にすべきヒントがたくさん詰まっていました。

特にお話を聞くなかで私がはっとさせられたのは、「かつて分校という存在は、下里に限らず全国どこでも当たり前暮らしの真ん中にあるものだ」ということでした。当たり前だった風景を、今の時代に残していくことにはどんな意味があるのか。その重みを改めて深く考えさせられる瞬間となりました。

今回の対話は、私たちにとって自分たちの立ち位置を再確認する大切な第一歩となりました。これからも地元の方々の声に耳を傾け、下里の皆さんと共に一歩ずつ歩いていける霜里学校でありたいと思います。お忙しい中お集まりいただいた区長さん方、本当にありがとうございました。